



小倉南消防団における地域防災の取組



福岡県北九州市小倉南消防署予防課
庶務係長 川崎 裕二

1 小倉南消防団の管轄区域

福岡県北九州市は九州の最北端に位置し、関門海峡をはさんで山口県下関市と向かい合っており、東部は周防灘、北部は関門海峡と響灘に面し、南部は福地山系が広がっています。

小倉南消防団は市の南東部に位置する小倉南区を管轄しており、平成29年7月1日現在、14分団13支部消防団員数441名（うち、女性消防団員25名）で組織され、消防車両28台（指揮車1台、ポンプ車14台、小型ポンプ積載車13台）を保有しています。

小倉南区は区域の約54%が山林であり、313か所の土砂災害特別警戒区域が存在しています。また、周防灘に面して広がる海岸線と市街地は、過去に台風による暴風雨に加え高潮や高波による被害を受けた経験もあり、さらに、福岡県の津波浸水想定においても区内で約520haの市街地が浸水するという大きな被害が予想され、住民避難等の防災体制の確立が喫緊の課題となっています。

2 津波・高潮災害等に対する取組

小倉南消防団では、福岡県が津波浸水想定を発表した直後に警防委員会を設置し、南海トラフ巨大地震及びこれに伴う津波対策に取り組んできました。

(1) マニュアルの作成及び研修の実施

総務省消防庁の通知に基づき、「北九州市小倉南消防団地震・津波災害発生時に

おける消防団活動・安全管理マニュアル」を作成しました。

このマニュアルには、東日本大震災における消防団員の公務災害の状況と原因及びその対策、その他、消防団活動に参考となる各種データも掲載するなど、消防団員の安全に重点を置いたものとなりました。

(2) 避難誘導及び広報ルートの検討

避難誘導や広報ルートの検討の際には、浸水想定地域のほか、標高や地形を考慮したバッファゾーン、河川の津波遡上予想範囲、道路・橋梁崩壊時の迂回路等について確認しました。

(3) 津波災害を想定した大規模な住民避難訓練を実施

平成28年9月1日の防災の日に、津波による浸水想定地域の住民による大規模な避難訓練が行われました。その際、消防団が事前に地図上で検討した避難誘導及び広報ルートに基づく訓練を実施しました。



津波災害を想定した住民の避難訓練



津波災害を想定した住民の避難訓練

また、沿岸区域に設置されたモーターサイレンや広報音声等の音達範囲や明瞭度を確認しました。

(4) 浸水想定区域の住民と「DIG (災害図上訓練)」を実施

消防団員がリーダーとなって浸水想定区域の住民とDIGを行い、避難経路を確認し、災害発生時の連絡体制、避難行動要支援者等の共助体制等を検討しました。

(5) 避難行動要支援者宅等への防火防災訪問

小倉南消防団では、女性消防団員による従来の防火訪問に『防災』という視点を取り入れ、独自に避難行動要支援者宅等を訪問対象に加えた防火防災訪問を実



浸水想定区域の住民とのDIG (災害図上訓練)

施しています。

この防火防災訪問では、防火指導に加え、家具の転倒防止対策や非常持ち出し品の紹介等を行うほか、避難時の近隣共助体制の確認や支援者に対する声かけを行っています。



避難行動要支援者宅等への防火防災訪問

3 あとがき

近年、大地震、津波、大火などが発生し、住民の安全・安心に対する関心が高まり、消防に対し地域住民から大きな期待が寄せられています。

このような中、小倉南消防団において、「住民の安全・安心のために何が必要か」を全団員で考えるため、消防団内に予防委員会や警防委員会を設置し、南海トラフ巨大地震対策や高齢者住宅防火対策等に取り組んできました。

今後も、地域住民のニーズという視点を重視しながら、全力で地域の消防防災体制の充実強化を推進していきたいと思えます。

